

いわくに魅力発信

Vol.5  
南河内・北河内

# いわくに IWAKUNI - CHIKAKUNI - MONOGATARI チカクニ物語



いわくに魅力発信 いわくにチカクニ物語 Vol.5

IWAKUNI  
CHIKAKUNI - MONOGATARI

（岩国市の詳しい情報はこちら）

ちかくにいわくに  
岩国市シティプロモーションサイト

<https://chikakuni-iwakuni.com/>

～あなたのちかくにある岩国の4つの魅力～  
岩国市シティプロモーションサイト

問合先 / 岩国市 広報戦略課

〒740-8585

山口県岩国市今津町一丁目14-51

TEL/0827-29-5016

mail:kouhou@city.iwakuni.lg.jp



家族の夢かなう  
いわくに暮らしサポートセンター  
IWAKUNI-KURASHI SUPPORT CENTER

<https://yumekana-iwakuni.jp/>

総合移住相談窓口

問合先/いわくに暮らしサポートセンター

〒740-0018

山口県岩国市麻里布町二丁目3-6

株式会社 街づくり岩国内

TEL/0120-28-1892(専用ダイヤル)、

0827-28-6020

相談受付/

月～土曜10:00～17:00



岩国 田舎暮らしの道しるべ！

<https://iwakuni-iju.jp/>

中山間地域への移住相談窓口  
(空き家バンク)

問合先/岩国市 中山間地域振興課

〒740-8585

山口県岩国市今津町一丁目14-51

TEL/0827-29-5012

mail:chiiki@city.iwakuni.lg.jp

相談受付/

平日9:00～17:00



いわくに魅力発信  
いわくにチカクニ物語  
Vol.5 2023年1月発行

岩国市 中山間地域振興課  
〒740-8585 山口県岩国市今津町一丁目14-51 TEL/0827-29-5012

この冊子は、岩国市ふるさと応援寄附金を財源に作成しました。内容は岩国市の中山間地域の情報を中心に掲載しています。  
歴史的記述に関する監修:岩国歴古館



## JR新岩国駅

1975年に開設された山陽新幹線の駅。当時、街中にある岩国駅との併設案もありましたが、線路延長による工事費用や用地買収、カーブ挿入による速度向上への妨げなどの問題から、当時開業した区間の駅の中で唯一の単独駅となりました。2012年に岩国錦帯橋空港が開港されるまで長らく首都圏などへの主要な交流手段として利用され、今も各地要所への移動などで多くの人が利用しています。



## 南・北河内地区

錦川中流域の山に囲まれた中山間地域。弥生時代の遺跡があるなど古くから人が住んでいたことがわかつて、戦国時代には河内郷と呼ばれていました。大内氏、毛利氏の支配下を経て、江戸時代には吉川家による岩国領に。明治に入り北部が北河内村、南部が南河内村となり、1955年に岩国市に合併しました。自然に囲まれた環境で、市街地から車で約30分圏内と比較的近く、錦川の川辺ではキャンプや釣り、カヌーなどが楽しめるところです。夏は多くの人が訪れます。近年は都会からのリターンや一軒家をする人も多く、外国人の定住者も増えてきました。

いわくに魅力発信

# いわくに チカクニ物語



—これまでのおはなし—

チカは東京の大学3年生の夏、岩国に帰郷してクニコとカープ由宇練習場に行つたとき、ひょんなことからサトルとテツに出会いました。

その後、岩国の各地を巡るようになった

男女4人。由宇・玖珂・周東（VOL1）、美川・錦（VOL2）、柱島群島（VOL3）、美和・本郷（VOL4）で、岩国の大魅力を再発見してきました。

今まで知らなかつた岩国の魅力を知つた

チカは、大学を卒業するとやつと取り付けた内定を断り、岩国に帰郷することを決意。岩国市内の企業に就職することになりました。

プライベートでも正式にサトルとつき合

いはじめ、今日は一足先に結婚したクニコとテツが新婚旅行から帰つてくる日。JR新岩国駅に2人を迎えて行き、最近仲良くなつたサトル・チカの知人に会いに行くことに。今回はほかにもどんな出会いが待つているのやら♪

## 〈登場人物〉



国本サトル（22歳）

岩国市周東町出身。広島のホテルでコックをしている。高校時代は甲子園を目指していた。



岩田テツ（23歳）

岩国市錦町出身。明るい性格で日本の伝統文化に詳しい。大学卒業後に小学校の教師となる。



岩田クニコ（22歳）

旧姓・葉月。実家は岩国市今津町。地元の大手企業に勤務するOL。カープ女子。



立花チカ（22歳）

岩国市山手町出身。東京の大学を卒業後、地元の企業に就職する。趣味は食べ歩き。

**農薬・化学肥料不使用の有機野菜で体も心も健康に**

中浜 良太郎さん(南河内／農家厨房 月城丸)

岩国市出身の中浜さんは高校を卒業後、広島で税理士を目指すも体調を崩し断念。その時に食の重要性を認識し、体に良い無農薬の有機農業に取り組むことに。南河内の古民家を改装して「農家厨房 月城丸」を開店。安定して経営できる農業を目指しています。

**ハンドメイドならではのこだわりの手芸雑貨**

伊藤 有季恵さん  
(南河内／雑貨アパート 林檎荘)

ものづくりと雑貨好きが高じて手づくり作家5人が集う「雑貨アパート 林檎荘」をオープンした伊藤さん。マスクットブローチやアップリケ刺繡などの作品を作り、近隣のイベントにも出店。ネット販売もしています。

**河内蓮華山**

標高500mの山で頂上からの眺めが素晴らしい、晴れた日には羅漢山などの中国山地や瀬戸内海に浮かぶ宮島、江田島などを見ることができます。



## 南河内

**みんなでつくる魅力ある地域**

山下 博さん(南河内／南河内村づくり塾・塾長)

地域の活性化を目指し活動する南河内村づくり塾。同地区にある河内中学校と北河内中学校が統合され岩国西中学校が開校したのを機に、錦川清流線・南河内駅周辺の田んぼに菜の花を植える活動をはじめ、花が咲く春には周辺の桜と相まった絶景が評判に。春の「菜の花フェスティバル」や秋の「ふれあいフェスティバル」を開催するなど、年間を通して地域の活性化に尽力されています。

### 手作りのおいしいものを提供できるようみんなで頑張ります

河内グランマの皆さん(南河内／企業組合 河内グランマ)

南河内村づくり塾から派生した企業組合で、20代から80代までの21人が所属する女性グループ。地産地消をかけ「畑からあなたへ」をコンセプトに年間生産量3トンを誇る味噌や、米粉を使ったシフォンケーキ、新鮮野菜をふんだんに使った弁当など、手作りのどこか懐かしい味が好評を得ています。

5 Iwakuni-miryoku-hasshin

Iwakuni-miryoku-hasshin 4

**北河内**

**みんなが集まる自然派レストラン**  
田坂 千秋さん（北河内／清流錦川憩い処 翠の風）

広島市出身の田坂さんは“いつか古民家カフェをオープンしたい”と夢を持ちながら広島や神戸で会社勤めを10年経験。その後、偶然この物件に巡り会い、知人と店をはじめることになりました。「オープン当初はコロナ禍で大変だったけど、お弁当の注文が入ったり、リピートしてくれるお客様もいたり、今ではご近所さんとの付き合いも楽しい」と話します。憩い処としていろいろなワークショップや集会などで利用できる「貸しスペース」も始めました。

**Uターン開業した地域の電気屋さん**  
河村 幸治さん（北河内／エディオン北河内店）

九州の大学を卒業後、広島の大手電気機器メーカーに勤めるも、地元に帰り電気店を開業した河村さん。この地域では唯一の電気屋さんです。



**仕事も子育ても自然の中で充実の毎日、岩国に来てよかった**  
齋藤 裕史さん・由香理さん（南河内／ガラス工房 ○(マル)）

富山県を拠点にガラス工芸作家として活動していた裕史さんは、工房の契約が終了する2014年に独立。それと同時に双子の赤ちゃんが誕生することがわかつて、由香理さんの実家がある南河内に移住を決意しました。現在は作品作りに集中できる環境と、自然の中で家族とのびのび過ごせる幸せを感じているそう。





**山口県東部森林組合錦川支所**

**COCCINELLA**

どれも  
おいしそうで  
悩むなあ

林業をもつと  
サービス業（飲食）  
でも  
知りたい

STIHL

自分自身も  
楽しいし、  
それを感じ  
もらつたら

遊べるイタリアンでお客様も自分たちも楽しく！

中山 康司さん・澤原 勇作さん（北河内／COCCINELLA（コッチネッラ））

イタリア語でてんとう虫を意味する「COCCINELLA」は、山口県東部森林組合錦川支所の一角に2021年9月オープンした薪窯ピザのお店です。薪を利用して焼くピザは評判で、ドライブがてら立ち寄るお客様多く、他県からのリピーターも。イタリア伝統の製法を独自に改良して作る生地はもちろん、ソースも全て自家製。屋外のイートインスペースもあり、自然に囲まれながら食べるピザは最高です。

二木 キッチンに  
良さそうじゅばわ

子どもさんが  
喜んでくれるのがうれしい

大内 義明さん  
(北河内／山口県東部森林組合錦川支所)

施設内に入ると木の香ただよう机やテーブル、腰掛けなどあり、どれもお値打ち価格の手作り品。道路に面する同所駐車場にはここで作った木製の玩具もあります。

# 国指定重要無形民俗文化財 ゆかばかんまい 岩国行波の神舞

この神楽はもともと岩国藩に伝わる社家神楽(しゃけかぐら)が里人によって伝承されたもので、その起源は寛文8年(1668)以前とされています。静(せい)と動(どう)を併せ持ち、腰をかがめた姿勢で舞われ、反開(へんぱい)と呼ばれる独特な足の動きが特徴で、神楽継承後、観衆の目を意識して舞い方を変更したり、華美に走ったりすることなく、伝統をよく伝えていると評価され、昭和54年(1979)2月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。足掛け7年毎に行われる「願舞(がんまい)」は一昼夜半にもおよび、多くの来場者が訪れます。

まつのは  
松登り

高さ25mの松に登り、  
張られた綱をつたって  
頭を下に降ります。

にほんぎ  
日本紀

古い形がよく  
伝えられている  
と評価されて  
いるんよ

こうれいぶちん  
荒靈武鎮あまついわと  
天津岩座  
あまたらずおおみかみ  
天照大御神

小さな子どもたちも熱心に練習して、  
本番に備えます。

## はつせき 八閑

願舞でのハイライトである「八閑」では、八鬼神八奉吏が登場。松登りでは荒神に扮する登り手が高さ約25mの松に登り、祀っている「三光」を燃やし、五穀豊穣、民安穏、厄疫退散を祈願します。また、この木の松葉にはご利益があると、言い伝えられています。



岩国行波の神舞伝承館

伝承  
貴重な資料  
見られるよ  
うに行けば

足掛け七年目ごとの  
式年祭(願舞)は、  
この地に住む人と  
神楽団が一丸となつて  
受け継ぐ大切な  
伝統文化なんだ。





